

短期大学幼稚園教育実習における 「説明、観察・見学」による学び

三橋 功一

三島 裕一

Junior College Students' Learning Through "Explanations and Observations" During Their Practice Teaching in Kindergartens

Kouichi MIHASHI

Yuuichi MISHIMA

キーワード：幼稚園教育実習，実践的能力，説明 観察・見学

1. はじめに

保育者の育てる力が注目されており，その専門性・実践的能力（専門的知識・技術）について『保育所保育指針解説』（2018）では，「①発達援助，②生活援助，③関係構築，④環境構成，⑤遊び展開，⑥保護者等への相談・助言」と規定している。また，保育者養成において，実習は重要な位置を占めており，保育実習の目的は，「その習得した教科全体の知識，技能を基礎とし，これらを総合的に実践する応用能力を養うため，児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させる」（厚生労働省 2015）である。また，教育実習は「①学校教育の体験的な認識，②教科や教職の理論と実践的能力の統合，③教育実践の研究的態度・能力の形成，④教育者としての使命感，能力適性の自覚」を目的として教員養成カリキュラムの基幹科目として位置づけられている（文部省 1978）。

保育実習・教育実習は大学の保育者養成・教育者養成カリキュラムであるが，「外部の教育機関（保育所・幼稚園等）へ委託」し，保育者・教師のもつ「保育実践・教育実践の知」を学ぶという特徴がある。大学における学びは，命題的知識（外部表象化・選定された知識・能力・技能）獲得による認知構造の変化に焦点が当てられるが，保育実習・教育実習は「保育者との保育活動の協同実践により，保育者の保育活動の実践知（暗黙知）の獲得」と捉えることができる。つまり，保育実習・教育実習は，保育者（専門家）主導の実践共同体・保育活動（本物の実践・保育活動）において，実習生（非専門家）が保育活動の観察・手伝い（周辺参加）から少しずつ責任を担い実践共同体の社会文化

的实践（保育活動）への十全的参加への移行を通してアイデンティティを形成する過程である。教育実習は，学生（学習主体）が教育実習園（正統的实践共同体 community of practice）へ赴き，その園の教育活動に周縁的に参加し，その参加の形態を徐々に変化させ，より深く実践共同体の活動に十全的関与に向かう過程（「正統的周辺参加による学習」レイブ，J・ウェンガー，E. 1993）といえる。

このように教育実習の学びは，学生の観察参加から，指導教師の指導の下，共同（手伝い）で継続的教育活動を行い，実習終了時には「研究保育」実施と，共同体の活動への参加形態の変化，それに連動し学習主体の行為のあり方，学習主体による実践共同体の社会文化的活動（観察，環境構成，働きかけ，評価等）の理解，さらに同期的に学習主体の自己認識（視点の変化，実践の理解，共同体における位置 等）を形成・変容させる学びである。

従来の教授・学習は，よく知っている者（教師）がその知識を，まだよく知らない未熟な者（学習者）へ教授・伝達する作業と捉えられ，予め教師により整理（状況・文脈情報等の捨象）された情報のみが学習者に提示され，学習者は，素早くその情報を理解・習得することが目的とされていた。状況的学習観においては，知識や技能は動的かつ状況的であると考えられる。学習は，まず知識・技能・実践力等が使用される実践共同体の参加者となることが必須要件となり，学習者自身が共同体において，参加を繰り返すことにより，共同体の一員としての自覚を増大させていく（アイデンティティ構築）ことが目標とされる。実践共同体へ参加し続け，出会う他者や状況の中に自らを置き徐々に全体を

把握し、個人が自らを取り巻く環境や他者との関係の中で「自分にもできることがある（手伝い・共同・代行・自ら行動）」として必要な知識・技能・実践力等、学習すること・学習していくことが見えてくる。保育実習・教育実習は、「実践知（実践力・知識・技能）」を学ぶ保育者養成における「正統的周辺参加による学習」（図1）の学びである。

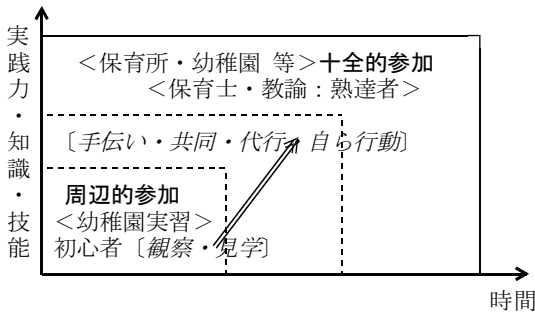


図1. 保育実習・教育実習の学び

教育実習は、保育者（専門家）主導の実践共同体・保育活動（本物の実践・保育活動）において、実習生（非専門家）が保育活動の観察・手伝い（周辺参加）から少しずつ責任を担い実践共同体の社会文化的実践（保育活動）への十全的参加への移行を通してアイデンティティを形成する過程である。教育実習は、学生（学習主体）が教育実習園（正統的実践共同体）へ赴き、その園の教育活動に周辺的に参加し、その参加の形態を徐々に変化させ、より深く実践共同体の活動に十全的関与に向かう過程（「正統的周辺参加による学習」）から、参与観察法（participant observation）（自然的観察法）による観察である（表1）。この参与観察における立ち位置は、「①完全なる観察者、②参加者としての観察者、③観察者としての参加者、④完全なる参加者」（佐藤 1992）の4つがある。教育実習では、子どもと活動をともしに行う参与観察であり、周りから「観察者」として見なされない「④完全なる参加者（complete participation）」である。

本稿は、A 短期大学保育学科 2 年次「幼稚園教育実習」における「説明、観察・見学」による学びについて検討する。

表1. 幼稚園教育実習等における観察法

観察場面 観察形態	自然的 観察法	実験的 観察法
参与観察法	教育実習	—
非参与観察法	観察実習	—

2. A短期大学の保育実習・教育実習プログラム

A 短期大学保育学科は、2 年間の保育士・幼稚園教諭養成カリキュラムを構成している。1 年次教育原理、保育原理、教職概論、教育心理学等の教職科目等履修終了後「保育実習Ⅰ（保育所）」をはじめとして、「短大での学び」と「保育実習（保育所・施設）、幼稚園教育実習」の実習・実践を並行にて学ぶ特徴がある（表2）。

表2. 保育実習・教育実習プログラム

時期	期間	実習名	必修・選択
1 年 2 月	2 週間	保育実習Ⅰ（保育所）	必修
2 年 6 月	2 週間	保育実習Ⅰ（施設）	必修
2 年 6・8・9 月	2 週間	保育実習Ⅱ（保育所）	選択
2 年 8・9 月	2 週間	保育実習Ⅲ（施設）	選択
2 年 8・9 月	3 週間	幼稚園教育実習	選択

3. 研究方法

(1) 研究対象

A 短期大学保育学科 2 年生

- ・科目名：「幼稚園教育実習」（表）
- ・実習期間：前半：平成 30 年 8 月 20 日～9 月 7 日、後半：9 月 10 日～10 月 2 日：3 週間（2 単位）
- ・実習場所：A 市および近郊の幼稚園
- ・実習生 46 名

(2) 調査方法

平成 30 年後期授業「幼稚園教育実習事後指導」において、自らの「幼稚園教育実習」の実習活動を振り返る（リフレクション）「幼稚園教育実習報告会」を 2 回開催した。

この報告会開催にあたり、図2「1.実習課題、2.

わかる〔a.説明, b.観察・見学（表3）〕, 3.できる〔c.活動・経験, d.準備・調査・研究〕, 4.振り返り（三橋ら 2018）の視点で整理・記述し、
・『幼稚園教育実習 学び・振り返り（1）』
・『幼稚園教育実習 学び・振り返り（2）』

の報告書を作成した。この報告書の記述「2.わかる〔a.説明, b.観察・見学〕」を対象に、「幼稚園教育実習」における学びを実習生（学習者）の視点で整理する。

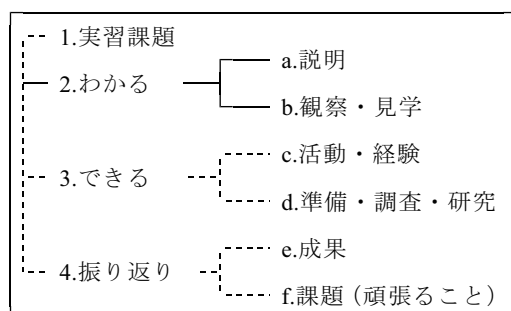


図2.幼稚園教育実習における学びの活動

表3. 幼稚園教育実習における学びの活動の視点

a.説明
実習担当者から実習園、実習担当クラス・幼児等について説明を受けた。
b.観察・見学
実習担当者の実践や幼児の活動・行動等を観察・見学した。（観察は、自然観察・参与観察法による）

（3）記述の整理・分析の手続き

調査対象の記述について、以下の手続きを行う。

- ①「幼稚園教育実習 学び・振り返り」の記述を意味の通じる一文・フレーズ等の単位に分け、テキストを構成する。
- ②構成されたテキストから、注目すべき語句を抽出する。（テキスト内に存在しない注目語・関連語についても抽出・検討）
- ③抽出語句等を、意味内容に合わせて真偽の判断対象となるよう要約・言い換える（「コード・命題・記述例」）。
- ④意味内容の類似した「コード・命題・記述例」を

統合し、意味内容に合わせ言い換える（「サブカテゴリー」）。

⑤サブカテゴリーをさらに共通性、類似性を検討しながら統合し、意味内容に合わせて言い換える（「カテゴリー」）

⑥この「カテゴリー」を単位として学びの特徴を検討する。

4. 結果と考察

「幼稚園教育実習」における実習生の報告書
・『幼稚園教育実習 学び・振り返り（1）』
・『幼稚園教育実習 学び・振り返り（2）』

の記述（1）説明、（2）観察・見学について整理・検討した。

（1）わかる

わかる（説明）では、表4に示す4つのカテゴリーと19のサブカテゴリーが抽出された。分析結果について、サブカテゴリーを《 》、コード・命題・記述例等を〈 〉で表記し、記述する。

①園運営

これは、幼稚園運営・教育活動等について述べたものであり、《教育方針・教育方法》《避難訓練》《意識化》の3つのサブカテゴリーから抽出された。

コード・命題・記述〈園の概要（教育目標や方針、教育活動の内容・特色、行事予定、クラス編成等）〉×「〇〇の保育」や、□□幼稚園が大切にしている保育内容について×〈行事について（クッキング、秋の遠足、災害時の引き渡し訓練）〉から《教育方針・教育方法》、〈避難訓練を月1回行う〉×〈必ず火災を取り入れて訓練〉×〈避難訓練のシナリオ作成は1人ずつ〉から《避難訓練》、〈活動を行う際、時間を確認し、幼児自身で行動させる〉×〈園児と親しく接することも大切だが、指導者であることを常に意識〉×〈長い廊下の中心に線を引き子どもたちに右側通行を促す〉×〈自転車で遊ぶ場所や走る方向を決め、怪我防止を促す〉から《意識化》の3つのサブカテゴリーから抽出された。

②保育者

これは、保育者の保育活動等について述べたものであり、《保育活動》《声かけ》《援助》《働きかけ》《アレルギー》《給食》《絵本選択》《絵本読

表4. 幼稚園教育実習における「わかる 説明」の学び

カテゴリー	サブカテゴリー	コード（命題・記述例 等）
①園運営	教育方針・教育方法	<ul style="list-style-type: none"> ・園の概要（教育目標や方針，教育活動の内容・特色，行事予定，クラス編成等） ・「〇〇の保育」や，□□幼稚園が大切にしている保育内容 ・幼稚園は，保護者も子どもたちも先生も共に学び成長していく場所 ・「慈愛と感謝」をもとに，「ありがとうの時間」「〇〇便ファイル」活動 ・ピョンピョンクラブ，ピコピコクラブ，グレープシードなどの課外指導・全体指導等のねらいや活動内容など ・〇〇っ子宣言を朝の会で唱和 ・遊学教育とともに自然と多く関わる教育活動 ・モンテッソーリ教育，お仕事について ・オリエンテーション時に園の特徴・概要 ・様々な体験や活動を通しての学びを大切に ・行事について（クッキング，秋の遠足，災害時の引き渡し訓練）
	避難訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を月1回行う ・必ず火災を取り入れて訓練 ・退避訓練は，子どもたちが慣れてしまう ・子どもたちが真剣に取り組めるよう保育者自身が緊張感をもつ ・地震は（9月6日深夜のように）いつ起きるかわからない ・避難訓練のシナリオ作成は1人ずつ ・＜災害カード：子どもの生年月日や住所などの個人情報＞保護者に引き渡す際に使用
	意識化	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を行う際，時間を確認し，幼児自身で主体的に行動させる ・先生の姿から自由遊びと保育の時間を区別をつけ園児に対応 ・園児と親しく接することも大切だが，指導者であることを常に意識 ・長い廊下の中心に線を引き子どもたちに右側通行を促す ・自転車で遊ぶ場所や走る方向を決め，怪我防止を促す
②保育者	保育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・出勤後，1日の流れを確認し，清掃方法，翌日の活動内容等 ・毎日必ず行う活動と曜日による活動（日々活動，曜日活動） ・子どもの活動・様子等の観察（子どもの変化に気付き，対処・配慮等）
	声かけ	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会，昼食，帰りの会で保育者が行う声掛け ・子どもが自分で考え行動し，自信を持てるポジティブな言葉掛け ・子どもに対する関わり方で，どのような援助や声掛けが適切か
	援助	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様々な場面で発達・特性に合わせどのような援助・かかわりが必要か ・「お仕事」では，一人ひとりが集中して行える環境を整える（道具を取りやすいように並べる・困っている子がいないか観察し，邪魔しないように援助する等） ・子どもに何か教えるときには右側に座り，子どもが見やすいようにする等の援助する ・保育者がいつも援助ではなく，年長児が年少児の面倒を自然に見てあげられる環境づくり
		<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の声が大きくなると子どもの声も大きくなりがちになる声に強弱をつけて話す ・遊びの場面では，子どもの興味，関心が何に向いているのか，子どもが何をしたいのかを

	働きかけ	よく観察し、一緒に活動しながら遊びが発展していくよう働きかける ・視覚的なものを活用して伝えることで子どもが理解・行動しやすくなる ・活動の際、活動時間を確認して自分で考えて行動させる ・小学校就学に向けて自分で考えて行動できるようにする ・保育活動は「子どもの姿」を予想し、子どもが楽しんで取り組む環境構成を考える
	アレルギー	・アレルギー（食物アレルギー）のある子どもへの対処
	給食	・年齢・月齢により給食調理方法に違い ・保育者は、給食準備をしながら子どもの様子を観察し、言葉がけ
	絵本選択	・絵本の選び方として、桃太郎のような“行って帰ってくるようなお話”が落ち着く ・幼児個人の好みだけでは偏りが出るため、様々なジャンルの絵本を読む
	絵本読み聞かせ	・絵本・紙芝居を読む際、役になりきりすぎると子どもが想像しながら聞くことができない ・話の途中はなるべく問いかけたりせず最後まで集中し聞いてもらう
③幼児	子どもの名前	・子どもたち一人ひとりの名前を実習が始まる前にあらかじめ把握 ・子どもの名前を把握しておく子どもたちとコミュニケーションがとりやすい ・子どもの名前を呼ぶとき「君、ちゃん」をつける等
	クラス構成	・クラスの名前、クラス構成、特色、子どもたち一人ひとりの特徴 ・少人数クラスのよさを生かした学級作りや心の安定を図る ・〇歳児として必要な経験を、効果的に取り入れ、意欲的に取り組ませ、自信につなげる
	異年齢・縦割り	・自分の思いを臆せず出す事ができるように力を伸ばすために異年齢との関わりなどから人との関わりの経験も広げながら自己実現できるよう支援 ・教師や他児に認められる体験を通し、自分のよさや特徴に気付けるように支援 ・異年齢で遊ぶ機会がある ・年齢が1つ変わるだけで、遊び方や子ども同士の関わり方も変わる ・上の子へは「憧れ」を、下の子には「優しさと思いやり」の心を持つ願い ・縦割り保育ではクラス、年齢関係なく子どもたちと関わる
	登園後活動	・登園後行うこと（自分の名前の札をひっくり返す、シール帳にシール貼りなど） ・登園後、職員室で先生方に挨拶、園服をハンガー、ハンカチかけ
④実習活動	ピアノ	・ピアノ伴奏等活用
	研究保育	・研究保育は、幼稚園カリキュラムの中で行う計画を立案
	準備・心構え	・実習内容等、実習日誌の書き方、持ち物、服装等 ・子ども一人ひとりの特徴を聞き、部分実習や研究保育に備えシュミレーション ・クラスの子ども一人ひとりの特徴、対応・関わり・配慮
	質問	・どのような言葉がけを心掛けているか質問 ・自分の取った行動や言動が正しい対応だったか質問 ・（オリエンテーション・毎日）子どもたちの様子、性格、特性、わからない所等質問

み聞かせ》の 8 つのサブカテゴリーから抽出された。

コード・命題・記述〈出勤後の 1 日の流れを確認し、清掃方法、翌日の活動内容等〉〈毎日必ず行う活動と曜日による活動(日々活動、曜日活動)〉〈子どもの活動・様子等の観察(子どもの変化に気付き、対処・配慮等)〉から《保育活動》、〈朝の会、昼食、帰りの会で保育者が行う声掛け〉〈子どもが自分で考え行動し、自信を持てるポジティブな言葉掛け〉〈子どもに対する関わり方で、どのような援助や声掛けが適切か〉から《声かけ》、〈発達・特性に合わせどのような援助・かわりが必要か〉〈「お仕事」では、一人ひとりが集中して行える環境を整える〉〈保育者がいつも援助するのではなく、年長児が年少児の面倒を自然に見てあげられる環境づくり〉から《援助》、〈保育者の声が大きくなると子どもの声も大きくなりがちになる声に強弱をつけて話す〉〈遊びの場面では、子どもの興味、関心が何に向いているのか、子どもが何をしたいのかをよく観察し、一緒に活動しながら遊びが発展していくよう働きかける〉〈視覚的なものを活用して伝えることで子どもが理解・行動しやすくなる〉〈活動の際、活動時間を確認して自分で考えて行動させる〉から《働きかけ》、〈アレルギーのある子どもへの対処の仕方〉から《アレルギー》、〈給食準備をしながら子どもの様子を観察し、言葉がけ〉から《給食》、〈絵本の選び方として、桃太郎のような“行って帰ってくるようなお話”が落ち着く〉から《絵本選択》、〈絵本や紙芝居を読む際は、役になりきりすぎると子どもが想像しながら聞くことができなくなる〉から《絵本読み聞かせ》であった。

③幼児

これは、幼稚園児の具体的活動について述べたものであり、《子どもの名前》《クラス構成》《異年齢・縦割り》《登園後活動》の 4 つのサブカテゴリーから抽出された。

コード・命題・記述〈子どもの名前を把握しておく子どもたちとコミュニケーションがとりやすい〉〈子どもの名前を呼ぶとき「君、ちゃん」をつける〉から《子どもの名前》、〈クラスの名前、クラス構成、特色、子どもたち一人ひとりの特徴〉〈少数クラスのよさを生かした学級作りや心の安定を図る〉から《クラス構成》、〈異

年齢で遊ぶ機会がある〉〈上の子へは「憧れ」を、下の子には「優しさと思いやり」の心を持つ願い〉〈縦割り保育ではクラス、年齢関係なく子どもたちと関わる〉から《異年齢・縦割り》、〈登園後行うこと(自分の名前の札をひっくり返す、シール帳にシール貼りなど)〉から《登園後活動》であった。

④実習活動

これは、教育実習における実習生の具体的活動について述べたものであり、《ピアノ》《研究保育》《準備・心構え》《わからないこと質問》の 4 つのサブカテゴリーから抽出された。

コード・命題・記述例〈ピアノ伴奏等活用〉から《ピアノ》、〈研究保育は、幼稚園カリキュラムの中で行う計画立案〉から《研究保育》、〈実習内容等、実習日誌の書き方、持ち物、服装等〉から《準備・心構え》、〈どのような言葉がけを心掛けているか質問〉〈子どもたちの様子、性格、特性、わからない所等質問〉から《質問》であった。

(2) 観察・見学

わかる(観察・見学)では、表5に示す 10 のカテゴリー(①園運営、②働きかけ、③学習活動、④遊び、⑤認知的活動、⑥子どもどうし)と 29 のサブカテゴリーが抽出された。

①園運営

これは、幼稚園運営・教育活動等について述べたものであり、《教育活動》のサブカテゴリーから抽出された。

コード・命題・記述例〈〇〇幼稚園が大切にしている保育内容を日々の保育に必ず取り入れている〉〈礼拝では全員がお祈りの言葉を覚えており、きちんと手を合わせてお祈り〉〈5 歳児、〇〇〇の文化祭、運動会に向けて子どもが意欲的に行事に取り組めるような活動〉から《教育活動》であった。

②働きかけ

これは、教育活動を進展させるための教師の活動について述べたものであり、《期待感》《空き時間の工夫》《教具活用》《発達・状況》《主体的活動》《待つ・見守り》《傾聴》《落ち着く環境》《昼食》の 9 つのサブカテゴリーから抽出された。

コード・命題・記述例〈子どもたちが次の活動に期待する働きかけ言葉がけ〉から《期待感》、

表5. 幼稚園教育実習における学び「わかる 観察」

カテゴリー	サブカテゴリー	コード（命題・記述例 等）
①園運営	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇幼稚園が大切にしている保育内容を日々の保育に必ず取り入れている ・幼稚園の〇〇ファームで育てた野菜が給食のおかずとして出ていて感謝の気持ちをもち食べる ・礼拝では全員がお祈りの言葉を覚えており、きちんと手を合わせてお祈り ・全職員把握できるように各教室に幼児のアレルギー一覧表掲示 ・5歳児、〇〇〇の文化祭、運動会に向けて子どもが意欲的に行事に取り組めるような活動 ・運動会に向けて子どもの意欲を高めるイベントが多い
	期待感	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが次の活動に期待する働きかけ言葉がけ
②働きかけ	空き時間の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・時間があるときにクイズを出したり、ピアノを弾いたり、保育に間がないように工夫。
	教具活用	<ul style="list-style-type: none"> ・導入時、子どもたちがイメージしやすいペープサート（具体的教具）使用 ・手遊びやペープサート、ピアノを弾いたりすることで子どもの気持ちを引き付ける
	発達・状況	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢、一人ひとりの成長、体格・言葉・行動の発達に合った言葉掛け・援助 ・夏休み明けで不安定な子には、気持ちを受け止めスキンシップを取り安心感を持てるよう保育 ・5歳児クラス40数名を、担任・副担任で役割分担し、活動を進め、園児全体の様子を見守る ・集中する場面とそうではない場面での切り替えが難しい ・登園時「ママ」と泣いている子どもの姿が見られ、夏休み明けは不安を抱きやすい ・行事等で園外に出るとき、周りの様子、安全に気を配り、子どもたちの動きにいつでも対応できる配慮 ・0・1歳児、おもちゃによる怪我等がない様、遊びで場所を区別 ・登園・降園時に保護者との関わり方を学ぶ ・トイレの前にきちんと並べるように促したり、シャツが出ていた時には入れてあげる
	主体的活動	<ul style="list-style-type: none"> ・「活動の流れ」を伝えることで考えて取り組む力を養う ・当番があり人前で話す練習や、自分の気持ちを伝えたりクラスの仕事を特別感や責任をもって行えるよう声掛け等雰囲気作り ・朝の会・帰りの会（保育者はピアノ合図のみ）は、当番の子どもたちが進行し毎日意欲的・主体的に活動 ・1日の活動の流れを順番に丁寧説明・伝え、「次は何をするのか？」を考えられるよう工夫 ・移動するとき、ジャンケンをして勝った方から移動するなど、ただ移動するだけではなく、これからの活動に興味がわくような小さな活動をいれる ・自由選択活動（モンテッソーリ教育）は一人ひとりが好きなお仕事を意欲的に活動 ・5歳児、「次はどうすればいいのかな？」等の疑問形の言葉がけで主体的行動を促す ・次の活動を伝え、「早く片付けを終わらせたい」という気持ちを持つよう促す ・5歳児、じゃんけんの人数が多いことを指摘すると、自分たちで考え半分に分かれてじゃんけん ・5歳児、保育者がCDプレイヤーのボタンや電気のスイッチ等にシールを貼り、それを目印に子ども達が使い方を覚え、自分で何でもできるよう工夫 ・5歳児、ある子どもの良い所を周りの子に気づけるよう促し、周りの子が「自分も」という気持ちを持てる言葉掛け ・5歳児、「小学校に行くための練習の時期」子ども達同士で活動のルールや話し合いができる働きかけ ・「〇〇見つけられるかな」等、玩具を探しながら楽しい片付け活動・遊びにする言葉がけ

	待つ・見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・トラブル発生時、暫く見守り、自分たちで解決できそうにないタイミングを捉えて声掛け・仲裁に入る ・トラブル発生時、年齢により対処方法が違う ・子どもどうしの喧嘩がたくさんあり、子ども達で解決することが多い ・「ここが痛い」と言ってきたとき、すぐに薬・絆創膏を貼ったりせず、様子を見る（「痛い痛い飛んでけ」）
	傾聴	<ul style="list-style-type: none"> ・勘違いでトラブルが起こることもあり、両者の話をよく聞き、納得いくよう仲裁する ・ただ「ごめんね」と謝る子もあり、何故謝らないといけないのかを説明 ・トラブルが起きた時、両方の子どもの思いを理解した上で、友達の気持ちを考えたり、どうすれば良かったのかを子どもが自分で考えて気づけるよう言葉掛けをし、教師が仲立ちとなってお互いの思いを伝えられるように配慮 ・具体的な例を示し話すことで、子ども達がイメージしやすく、伝わりやすい ・4歳児、お互いの子どもに耳を傾け意思を尊重し良いこと、悪いこと等、気付かせる援助 ・お互いの話を傾聴し、子ども達に考えさせ、お互いが納得できる・謝ることができる言葉がけ
	落ち着く環境	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが落ち着くまで待ち、両者が納得できるように話を聞く ・3歳児、何度も喧嘩を繰り返す子どもに対し、落ち着ける環境づくり ・周りの子に刺激を与えないような環境づくり
	昼食	<ul style="list-style-type: none"> ・時計に星シールを貼り、給食の時間を示す ・4歳児、自分で食べる量を考えて伝えられる ・昼食時、子どもたちの食べる様子の観察・言葉がけ ・お弁当の内容等の観察から家庭・保護者の特徴などを捉え、保育・保護者支援に役立てる ・お弁当時には進んで食べられるよう言葉がけ・励まし ・給食指導では苦手な食べ物を1口でも味見を促す ・苦手な食材も食べてみようとする気持ちがもてるよう小さく切り「先生と一緒に食べてみよう」言葉がけ
③学習活動	音楽リズム	<ul style="list-style-type: none"> ・歌、ダンスは覚えが早く、保育者が口ずさんだり踊って見せたりするとすぐに真似をし、一緒に歌ったり踊ったりする ・3歳児、曲のリズムに合わせながら楽しく体を動かし歌う ・鍵盤ハーモニカ「きらきら星」「カエルの歌」「ドレミの歌」が弾ける ・5歳児、歌詞の意味をよく理解し、歌を楽しんでいる姿が見られた。
	制作	<ul style="list-style-type: none"> ・全クラス共通“お絵かき”が人気で自由に好きな絵（似顔絵、電車等）を描く ・工作が得意なクラスで、遊びに使うものを手作りし、遊びを展開するのが上手 ・“廃材”や使っていない道具があるコーナーの設置 ・制作活動では落ち着いて話を聞き、活動を一人ずつ確認をしたり一緒に行うなどの援助が必要 ・3歳児、完全ではないが針に糸を通すことができる
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの子が鉄棒の逆上がり、跳び箱が跳べる ・水泳・ボール遊び等が苦手であっても、あきらめず自分で挑戦し、達成しようとする意欲的な姿
	活動	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの育てた野菜を見て収穫し喜ぶ ・友達の活動に興味をもつ ・自分が頑張っているところを認めて欲しい思い ・途中で飽きてしまう子 ・5歳児、トイレ・飲水・昼食後の歯磨き等次の行動をする前に先生に確認をとる子

	ルーティン	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児、日付・曜日を確認し、出席シール帳にシールを貼る ・4歳児は登園後の身の回りの始末を行い、忘れ物があれば自ら進んで先生に伝える ・4歳児、登園降園時の支度や昼食の準備、着替えや歯磨きなど身の周りのことは自分で出来る ・大体の子は自分でズボンを上げ下げし、一人で排泄する
④遊び	玩具	<ul style="list-style-type: none"> ・手先を使う玩具(パズル、ブロック、カプラ、粘土)が人気 ・ブロックで独楽を作ったり、ワミーを繋ぎあわせてリボンやボールなどを工夫して活動 ・年少児はブロックで家、汽車、船等を作ることが上手 ・4歳児、男子・女子特有の遊びでなく、男子がままごと・女子が車の玩具で遊ぶ
	取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・何事にも積極的に取り組み、遊びを通して楽しさを見つけている ・3歳児、友だちや5歳児の遊びを真似て、同じように取り組もうとする ・4歳児、8月頃、一人で遊ぶことより、先生や友だちと関わり自分の気持ちを相手に伝えようとする ・5歳児、園庭に出ると、男の子・女の子も一生懸命トンボを追いかけて捕まえる
	ごっこ遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児、様々な遊びの中で、ルールを理解して遊ぶ姿(店員とお客に分かれるなど、それぞれの役割を決めクラス全体で、ごっこ遊びを楽しむ) ・「ままごと→お店やさんごっこ→銀行やさんごっこ等」発展した遊び ・「お店屋さんごっこ、病院ごっこ等」ごっこ遊びを楽しむ ・自分が体験したことや、テレビドラマの登場人物の真似をして遊びを広げる
	片付け	<ul style="list-style-type: none"> ・違う遊びで遊びなくなったら出した玩具を片付け素あった場所へ戻す習慣 ・次の遊びに移る時は片付けるよう声を掛け合う ・「かたづけの歌」を聞くと周りの子へ声かけ進んで片付ける子、なかなか片付けられず遊んでいる子 ・年少、片付け時、自分だけで片付けたい子と手伝ってあげたい子が言い合い
	ルール	<ul style="list-style-type: none"> ・同じものや場所で遊びたいとき、子ども達同士で話し合いをして順番を決める ・元気に外で鬼ごっこ、かくれんぼ等で遊ぶ子が多く、自分たちでルールを話し合い決めている ・遊びの中で友達同士で競いあうことを楽しんでいる ・「入れて」「いいよ」など言葉・コミュニケーションをとりながら友だちと仲よく遊ぶ ・4歳児、自分達のルールを作り、そのルールを守りながら遊ぶ ・5歳児は自分で考えて遊びを展開している
⑤認知的活動	聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の話を集中して聞いているように見えるが、理解していない子は友達に質問・確認 ・4歳児、先生の説明をしっかりと理解している ・4歳児全員で「物語朗読を聞き」、朗読後物語の内容について質問し物語の伝えたいことを問いかける ・5歳児、覚えた英語を話す事や、英語の質問に答えられる
	話す	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児、自分の意思を相手に伝えることができる ・自分の思いや考えを進んで話すことができても、他クラス・外部の人へ話す事が苦手 ・言葉遊びをすることで文章を作り仲間と発表できる
	読む	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児、ひらがなが読める ・4歳児、ひらがなが読める、スラスラと絵本を読む ・5歳児、ひらがなを指で字を追って読む
		<ul style="list-style-type: none"> ・5歳児、ひらがなで自分の名前を書いたり、思い出の文章が書ける

	書く	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5 歳児，文字を書く練習 ・ 5 歳児，文字を大体の子が書くことができ，世界地図も覚えている ・ 5 歳児，先生が書いた文字を真似て書けるが，鏡文字・右から左（横書き）に書いている子 ・ 5 歳児，読み書きが出来る子，出来ない子の差が大きい ・ 漢字の絵本，制作活動時は，子どもどうして教え合う。 ・ 文字・数字の書き取り練習や，物語の場面の絵を描く活動時間に，すぐに文字や絵を描く園児， ・ 文字・数字の書き取り時，保育者を呼び，確認し活動を円滑に進めることに不安な園児 ・ 文字・数字書き取り，製作活動が上手くできない子へ，活動に取り組みやすい配慮
	数・形	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で三角形や四角形，円などの形を合わせて，作りたいものをイメージし表現することが難しい ・ 4 歳児は，数字に興味関心があり，足し算や引き算ができる ・ 5 歳児，友だち同士で筆箱の中身を見せ合い，数や長さを比べている（知能で比較力が発達）
	絵本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小さな図書館があり，毎週 1 冊ずつ好きな絵本を借りる ・ 絵本を読む時，子どもの名前・クラスの名前を入れることで絵本の世界に入りやすく，伝えやすくする
⑥子どもどうし	助け合い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 困っている子に気が付き，助けたり手伝ったり ・ 助け合い，注意が友達同士でだんだん出来ていく ・ 子どもどうして欠席している子がいるかを確かめることで他の子どもを思いやる心が育つ ・ 4 歳児，野菜嫌いの子どもどうして「せーの」と言って，一緒に頑張って食べる ・ 5 歳児，泣いている子へ優しく声掛け，自分たちで解決しようと子どもどうして話し合ったり，謝ったりする
	ルール・秩序	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊び等でして良いこと，いけないことを友達どうして教え合い ・ 友達と関わりを持って遊ぶ子，一人遊びの子など ・ 子どもたち同士でルールなどを話し合って決めている ・ 3 歳児，玩具を友達同士で「貸して」などと声を掛け合いながら使う ・ 約束事を子どもと一緒に確認しながら活動 ・ 一度聞いたルールや約束事をしっかりと理解 ・ 年少児，「仲間に入れて」「いいよ」の声の掛け合いをしながら遊ぶ ・ お互いに「ありがとう」「どういたしまして」，「ごめんね」「いいよ」等としっかり自分の気持ちを言う ・ 何かをしてもらった時には感謝の言葉「ありがとうございます。」 ・ 「ごめんね」「（貸してくれて）ありがとう」等をしっかりと言える ・ 遊びの中で喧嘩している場面では，「〇〇ちゃんが今使ってたんだよ，順番に使おうね」と周りの子が教えてあげたりしている部分があり子どもたちの自分たちで解決する力
	モデリング	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5 歳児が 3 ～ 4 歳児のお手本となり責任感を持つ ・ 縦割り保育時，5 歳児はお手本になれるよう 3・4 歳児をリードしたり，優しく接している ・ 3・4 歳児は 5 歳児を真似して遊んだり，一緒に活動に取り組んだりしている ・ 年長児が年少児と一緒に遊び，おもちゃを貸してあげたり，ルールを優しく教える姿 ・ 年少児は年長児と一緒に遊び真似したり憧れを持ったりしている姿。
	連帯感・競う	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4 歳児，運動会の練習時には，友だちを必死に応援する姿が見られ，勝ち負けの理解 ・ 5 歳児，運動会の練習時，同じチームの友だちを必死に応援し，勝ち負けや順位にこだわる ・ 励まし・競い合い，相手の気持ちに寄り添い，いろいろな事に「みんなで挑戦しよう」とする

＜時間があるときにクイズを出したり、ピアノを弾いたり、保育に間がないように工夫＞から《空き時間の工夫》、＜手遊びやペープサート、ピアノを弾いたりすることで子どもの気持ちを引き付ける＞から《教具活用》、＜年齢、一人ひとりの成長、体格・言葉・行動の発達に差に合った言葉掛け・援助＞から《発達・状況》、＜「○○見つけられるかな」等、玩具を探しながら楽しい片付け活動・遊びにする言葉がけ＞から《主体的活動》、＜トラブル発生時、暫く見守り、自分たちで解決できそうにないタイミングを捉えて声掛け・仲裁に入る＞＜子どもどうしの喧嘩がたくさんあり、子ども達で解決することが多い＞から《待つ・見守り》、＜トラブルが起きた時、両方の子どもの思いを理解した上で、友達の気持ちを考えたり、どうすれば良かったのかを子どもが自分で考えて気づけるよう言葉掛けをし、教師が仲立ちとなってお互いの思いを伝えられるように配慮＞＜お互いの話を傾聴し、子ども達に考えさせ、お互いが納得できる・謝ることができる言葉がけ＞から《傾聴》、＜子どもが落ち着くまで待ち、両者が納得できるように話を聞く＞＜周りの子に刺激を与えないような環境づくり＞から《落ち着く環境》、＜給食指導では苦手な食べ物を1口でも味見を促す＞＜苦手な食材も食べてみようとする気持ちがもてるよう小さく切り「先生と一緒に食べてみよう」言葉がけ＞から《昼食》であった。

③学習活動

これは、幼稚園児の学びの具体的活動について述べたものであり、《音楽リズム》《制作》《運動》《活動》《ルーティン》の5つのサブカテゴリーから抽出された。

コード・命題・記述例＜歌、ダンスは覚えが早く、保育者が口ずさんだり踊って見せたりするとすぐに真似をし、一緒に歌ったり踊ったりする＞＜鍵盤ハーモニカで、「きらきら星」「カエルの歌」「ドレミの歌」が弾ける＞から《音楽リズム》、＜全クラス共通“お絵かき”が人気で自由に好きな絵（似顔絵、電車等）を描く＞＜“廃材”や使っていい道具があるコーナーの設置＞から《制作》、＜ほとんどの子が鉄棒の逆上がり、跳び箱が跳べる＞から《運動》、＜自分たちの収穫した野菜を見て喜ぶ＞＜友達の活動に興味をもつ＞から《活動》、＜4歳児、登園降園時の支度や昼

食の準備、着替えや歯磨きなど身の周りのことは自分で出来る＞から《ルーティン》であった。

④遊び

これは、幼稚園児の遊びの活動について述べたものであり、《玩具》《取り組み》《ごっこ遊び》《片付け》《ルール》の5つのサブカテゴリーから抽出された。

コード・命題・記述例＜手先を使う玩具（パズル、ブロック、カプラ、粘土）が人気＞＜ブロックで独楽を作ったり、ワミを繋ぎあわせてリボンやボールなどを工夫して活動＞＜年少児はブロックで家、汽車、船等を作ることが上手＞から《玩具》、＜何事にも積極的に取り組み、遊びを通して楽しさを見つける＞＜3歳児は、友だちや5歳児の遊びを真似て、同じように取り組もうとする＞から《取り組み》、＜「ままごと→お店やさんごっこ→銀行やさんごっこ等」発展した遊び＞から《ごっこ遊び》、＜違う遊びで遊びたくなったら出した玩具を片付け素あった場所へ戻す習慣＞＜「かたづけの歌」を聞くと周りの子へ声かけ進んで片付ける子、なかなか片付けられず遊んでいる子＞から《片付け》、＜同じものや場所で遊びたいとき、子ども達同士で話し合いをして順番を決める＞＜元気に外で鬼ごっこ、かくれんぼ等で遊ぶ子が多く、自分たちでルールを話し合い決めている＞から《ルール》であった。

⑤認知的活動

これは、幼稚園の教育活動における園児の認知的活動について述べたものであり、《聞く》《話す》《読む》《書く》《数・形》《絵本》の6つのサブカテゴリーから抽出された。

コード・命題・記述例＜4歳児、先生の説明をしっかりと理解している＞から《聞く》、＜3歳児は自分の意思を相手に伝えることができる＞＜自分の思いや考えを進んで話すことができても、他クラス・外部の人へ表現する事は苦手＞から《話す》、＜3歳児、ひらがなが読める＞から《読む》、＜5歳児、ひらがなで自分の名前を書いたり、思い出の文章をだいたい書ける＞＜5歳児、読み書きが出来る子、出来ない子の差が大きい＞から《書く》、＜自分で三角形や四角形、円などの形を合わせて、作りたいものをイメージしながら、何かを表現することが難しい子＞＜4歳児、数字に興味関心があり足し算や引き算ができる＞から

《数・形》, <絵本を読む時, 子どもの名前・クラスの名前を入れることで絵本の世界に入りやすく, 伝えやすくする>から《絵本》であった。

⑥子どもどうし

これは, 幼稚園教育における幼児の自立をめざす子どもどうしの活動について述べたものであり, 《助け合い》《ルール・秩序》《モデリング》《連帯感・競う》の4つのサブカテゴリーから抽出された。

コード・命題・記述例<困っている子に気が付き, 助けたり手伝ったり><助け合い, 注意が友達同士でだんだん出来ていく><5歳児, 泣いている子へ優しく声を掛け, 自分たちで解決しよう>と子どもどうしで話し合ったり, 謝ったりする>から《助け合い》, <遊び等でして良いこと, いけないことを友達どうしで教え合い><3歳児, 玩具を友達同士で「貸して」などと声を掛け合いながら使う><年少児, 「仲間に入れて」「いいよ」の声の掛け合いをしながら遊ぶ><お互いに「ありがとう」「どういたしまして」, 「ごめんね」「いいよ」等としっかり自分の気持ちを言う>から《ルール・秩序》, <3・4歳児は5歳児を真似して遊んだり, 一緒に活動に取り組んだりしている><年長児が年少児と一緒に遊び, おもちやを貸してあげたり, ルールを優しく教える姿>から《モデリング》, <4歳児, 運動会の練習時には, 友だちを必死に応援する姿が見られ, 勝ち負けの理解>から《連帯感・競う》であった。

(3) 考察

①説明

説明では, 「園運営, 保育者, 幼児, 実習活動」の4つのカテゴリーが抽出された。これは, 実習を進めるにあたって必要な幼稚園の概要(教育方針, 退避訓練・意識化)と, 保育者(保育活動, 声かけ, 援助, 働きかけ, アレルギー, 給食, 絵本選択, 絵本読み聞かせ)活動, 幼児(子どもの名前, クラス編成, 異年齢・縦割り, 登園後活動)の特徴・活動, 実習活動(ピアノ, 研究保育, 準備・心構え, 質問)等, 実習遂行に基本的な情報が伝達されている。

②観察・見学

わかる(観察・見学)では, 10のカテゴリー(①園運営, ②働きかけ, ③学習活動, ④遊び, ⑤認知的活動, ⑥子どもどうし)と29のサブカテ

ゴリーが抽出された。

観察は, 視覚・聴覚を中心とした知覚作用を媒介とした事物・現象についての経験的知識獲得(山名 2000)であるが, 単なる知覚の集積ではなく「脳が解釈した像(岩田 1997)」であり, 目的意識をもち対象を知覚・把握・認識する知的活動である(森川 1978)。つまり, 教育活動の観察には, 教師や子どもの動きに新しい何かを見つける思い・願い, 「気づく・みえる」ための心的準備が不可欠である(大西 1982)。教育実習において実習生が, 焦点をあてた観察対象は, 以下のように整理できる。

ア) 幼稚園運営・教育活動, 教師の活動

①園運営, ②働きかけ

《教育活動》, 《期待感》《空き時間の工夫》《教具活用》《発達・状況》《主体的活動》《待つ・見守り》《傾聴》《落ち着く環境》《昼食》

イ) 幼稚園児の学びの具体的活動

③学習活動, ④遊び

《音楽リズム》《制作》《運動》《活動》《ルーティン》, 《玩具》《取り組み》《ごっこ遊び》《片付け》《ルール》

ウ) 幼稚園児の認知的活動

⑤認知的活動

《聞く》《話す》《読む》《書く》《数・形》《絵本》

エ) 幼稚園児の人間関係

⑥子どもどうし

《助け合い》《ルール・秩序》《モデリング》《連帯感・競う》

津守(1986)は, 保育者の保育活動について, 子どもと「会合うこと」「交わること」, そして子どもを「見ること」は同時に行われている保育者の行為の三つの側面であるといっている。

教育は, 教師と子どもの相互作用を基盤として, 教師が意図的に働きかける教育活動・行為である。保育は, 子どもと保育者との相互作用を基盤として, 保育者が子どもに保育意図をもって働きかける営みであり, 保育者自身が子どもの活動に参加し, 子どもに関わりながら観察する(図3)。そこで保育者は, 子どもを客観的に対象視するのではなく, その主観的な枠組みを拠り所とし, その身体・感覚レベルにより子どもを観察するのである。したがって, 保育者の観察は保育行為の一部であり, その観察対象

に関わりながら、関わっている自分の行為をも含めて観察する「参与観察」である(中島 1997)。

さらに中島(2000)は保育者の保育行為は、「子どもを観察すること」「子どもを理解すること」「子どもを援助すること」から成り立ち、これらの行為の不分離性を示している(図4)。つまり、観察行為には、保育者がその子どもをどう理解するのかという理解行為が含まれており、その理解と同時に保育者は、子どもをどう援助したらよいかの術を得ているという意味である。観察対象の行動は、「言葉に意味があるように行動にも意味があり、意味ある行動は行為(action)と呼ばれ、行為には意図(intention)がある(矢野 2002)」, ように行動(行為)の観察と併せて背景・意図の推論が不可欠である。

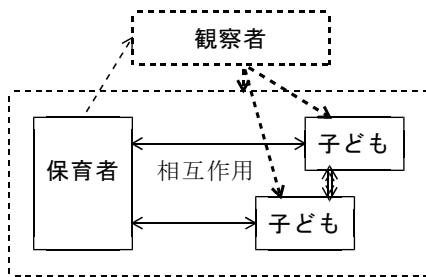


図3. 保育者・観察者としての参与観察

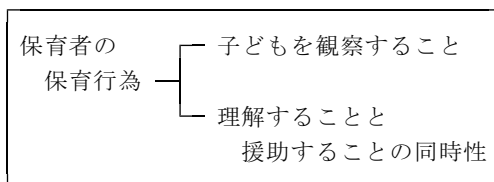


図4. 保育行為の不分離性(中島紀子, 2000)

教育実習は、教育活動に観察→参加することを通して教育機関における教師の仕事や子どもに触れ・理解し実践を行うという順序性を持つ指導が行われる。学生の幼稚園実習における観察は、短大における講義・演習の子ども理解・教師の働きかけ等の学び・枠組みを通して、教師の子どもへの働きかけ・子どもの活動の「観察(①完全なる観察者)」と併せて、子どもとともに行う活動へ「参与観察(④完全なる参加

者)」へ変容し、理解(「子どもを観察すること」=「子どもを理解すること」となる。さらに、参与観察を通し、指導教員のもつ「実践知(理解→どう援助したらよいかという術)」を学ぶこととなる。

このように実習生の観察による学びは、保育者(専門家)主導の社会文化的実践(保育活動)へ、実習生(非専門家)が観察(周辺参加)から少しずつ責任を担う参加(手伝い)への活動を通じたアイデンティティ形成過程である。

ロゴフ(Rogoff 2006)は、文化実践コミュニティ(幼稚園)の文化的活動・過程への参加することで、そこにおける知識や理解の仕方などが変容していく過程を「導かれた参加(guided participation)」と説明している。

生田(2019)は、カント『判断力批判』、三枝『技術の哲学』を援用・検討し、授業実施過程における教師の「認知(みえる)・判断・決定・行為(手を打つ)」の総体を「わざ(判断の知)」としている。授業者(教師)の「認知、思考・判断、行為」研究として Shavelson(1973)、吉崎(1983)等の研究があり、授業のある時点における教師の「キュー(手掛かり)の出現→情報の抽出→仮説の設定→学習者の状態についての推論→次の行為に関する専門職としての意思決定→習熟した行為(スキル)の遂行」の意思決定過程を提案している。つまり、教育実践は、観察(「みえる(認知)」)からはじまるのであり、教育実践・教育実習の学びでは「観察・見学」が重要な役割を持つと言える。

このように教育実習において子ども・保育活動の観察・見学は、子どもを理解することであり、さらに保育者の保育活動(援助)を学んでいると考えられる。

教育実習生の教育実習期間中の課題の一つに「実習日誌記述」がある。教育実習における保育活動従事と参与観察したことを日誌に記述することが難しく、記述に毎日数時間要し実習生の大きな負担となっている。今後の検討課題の一つである。

5. まとめ

「幼稚園教育実習」における実習生の報告書・『幼稚園教育実習 学び・振り返り(1)』

・『幼稚園教育実習 学び・振り返り (2)』

の記述「(1) 説明, (2) 観察・見学」について整理・検討した。

(1) 説明では, 「①園運営, ②保育者, ③幼児, ④実習活動」の4つのカテゴリーと19のサブカテゴリーが抽出された。実習遂行に基本的な情報を説明・伝達されている。

(2) わかる(観察・見学)では, 6のカテゴリー(①園運営, ②働きかけ, ③学習活動, ④遊び, ⑤認知的活動, ⑥子どもどうし)と29のサブカテゴリーが抽出され, 「観察・見学」により幼稚園における教育活動から多くのことを学んでいる。

(3) 教育実習の「観察・見学」を通して実習生は,

ア) 幼稚園運営・教育活動, 教師の活動

イ) 幼稚園児の学びの具体的活動

ウ) 幼稚園児の認知的活動

エ) 幼稚園児の人間関係

について学んでいる。

教育実習における観察・見学は, 子ども理解と併せて, 保育活動(援助)を学んでいると考えられる。

謝辞: 研究にご協力いただきました A 短期大学保育学科 2 年生「幼稚園教育実習」履修学生, 幼稚園教育実習(学生)をご指導いただきました幼稚園の教職員の皆様に深謝いたします。

付記: 本研究は, 「函館短期大学実験等倫理委員会」の審査・承認(H.30-07)を受けている。

参考文献

- 生田孝至 (2019) 第 8 章 教師のわざを科学するということ, 第 1 節 教師のわざと型, 教師のわざを科学する, 一莖書房
- 岩田誠 (1997) 見る脳・描く脳, 東京大学出版会
- 厚生労働省 (2018) 保育所保育指針解説
- 三橋功一, 穴田朱里, 伊藤しずく, 伊藤桃佳, 小杉朋花, 齋藤あゆみ, 鈴木杏奈, 松谷芽依, 矢島愛理 (2018) 短期大学 1 年次「保育実習 I (保育所)」の実習活動, 日本教育メディア学会研究会論集, 45, 1-10

文部省 (1978) 教育実習の改善充実について

森川久雄 (1978) 観察・実験, 教育学大辞典, 第 1 巻, 第一法規, pp.504-506

中島紀子 (1997) 保育者の子ども理解に関する一試論, 聖カタリナ女子短期大学紀要, 30, 43-52

中島紀子 (2000) 保育現場における子ども理解の方法論について (II), 聖カタリナ女子短期大学紀要, 33, 23-36

大西忠治 (1982) 教師の「指導」とは何か, 明治図書

レイヴ, J.・ウェンガー, E./佐伯胖 訳 (1993) 状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加—, 産業図書

ロゴフ, B./當眞千賀子 訳 (2006) 文化的営みとしての発達—個人, 世代, コミュニティー—, 新曜社

津守真 (1989) 保育の一日とその周辺, フレーベル館

佐藤郁哉 (1992) フィールドワーク—書を持って街へ出よう—, 新曜社

Shavelson. R.J. (1973) The basic teaching skill: Decision making, Research and Development Memorandum, 104, Stanford Center for Research and Development in teaching

山名淳 (2000) 観察, 教育思想事典, 勁草書房

矢野喜夫 (2002) 3 章 行為の意味と発達, 認知発達心理学—表象の知識の起源と発達—

吉崎静夫 (1983) 授業実施過程における教師の意思決定, 日本教育工学雑誌, 8, 61-70